

HK-600 (ハゼ締め&嵌合)

■屋根30分耐火構造 FP030RF-0577 FP030RF-0575

日本鐵板株式会社

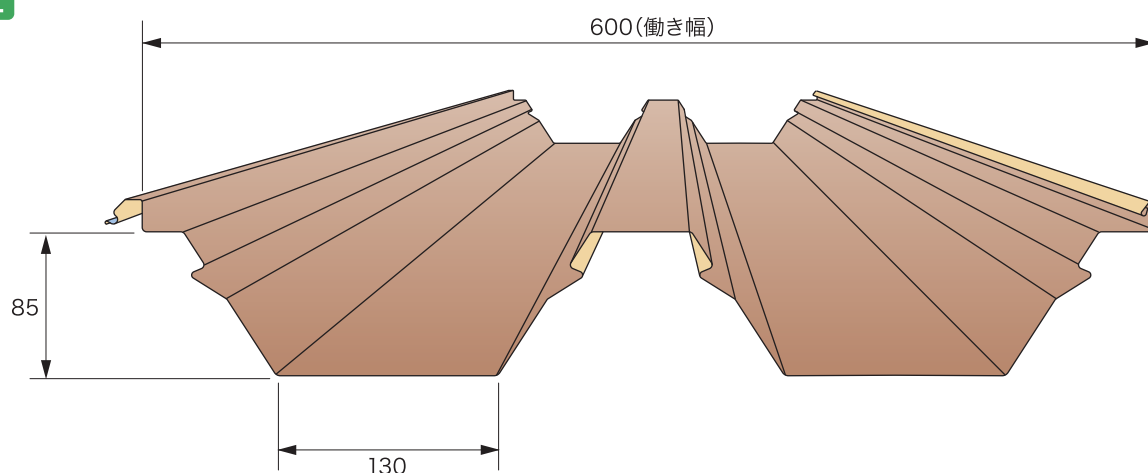
特長

- 本体の左右両側の嵌合箇所に加え、中間山部にも頑固な嵌合箇所があり、風荷量に対して優れた耐力を発揮。
- はぜ仕上げ後の空気層が毛細管現象を防ぎ、水密性を向上。
- 嵌合リブを設けたことにより曲げ剛性が向上。
- 中間山部のはぜ仕上げが不要で、施工時間が短縮。
- 吊子を使用しないため、タイトフレームへの取り付けが容易。
- HKシリーズ独自のはぜ形状により、はぜ仕上げが容易。はぜ仕上げ機も19kgと軽量。

製品図

単位:mm

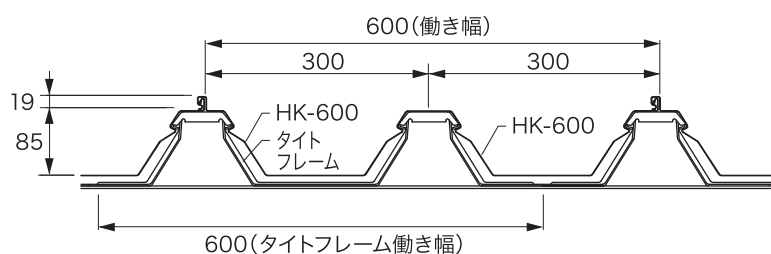
関東
BL



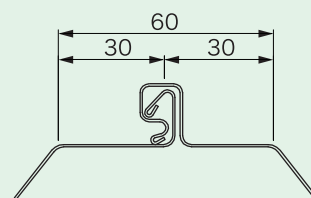
CAD
DATA

施工断面

単位:mm

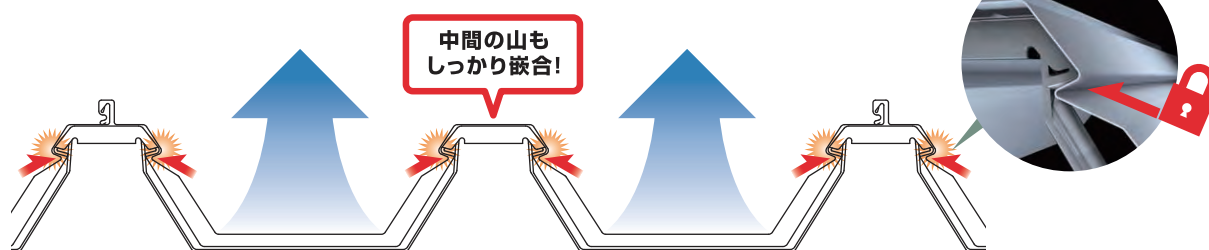


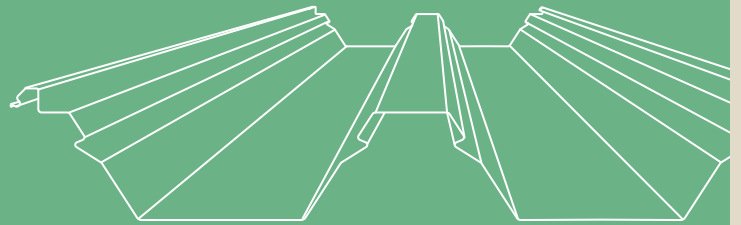
CAD
DATA



CAD
DATA

特長図





製品仕様

原板幅	914mm
適正板厚	0.5~0.6 (0.8) mm
使用材料	GL鋼板、フッ素鋼板、アルミめっき鋼板、他
適正勾配	3/100以上
自然曲率半径	150m以上
m ² あたり必要m	1.67m

断面性能

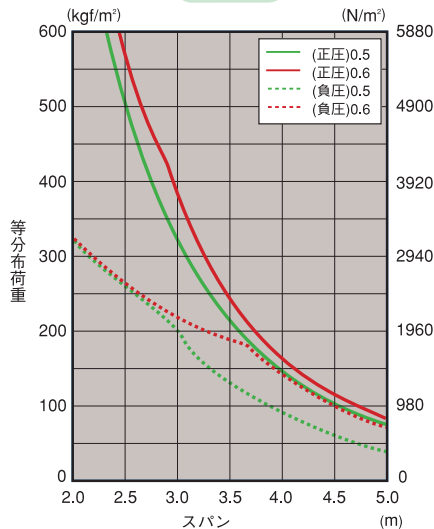
GL鋼板

板厚	単位重量		正 圧		負 圧	
mm	kg/m	kg/m ²	lx(cm ⁴ /m)	Zx(cm ³ /m)	lx(cm ⁴ /m)	Zx(cm ³ /m)
0.5	3.77	6.30	101	22.5	61.2	12.6
0.6	4.49	7.50	116	25.5	98.9	20.8

(注)アルミメッキ鋼板の場合は、板厚表示方法が違いますので上記数値に0.9を乗じた数値を目安として下さい。

許容梁間 (参考)

連続梁



連続梁

$$\delta = \frac{3Wl^4}{384EI} \leq \frac{l}{300}$$

$$\sigma = \frac{Wl^2}{10Z} \leq 1400 \text{ kgf/cm}^2$$

δ = たわみ量 (cm)
 l = スパン (cm)
 W = 等分布荷重 (kgf/cm)
 σ = 曲げ応力度 (kgf/cm²)
 E = ヤング係数
 $(2.1 \times 10^6 \text{ kgf/cm}^2)$
 I = 断面2次モーメント
 (cm^4/m)
 Z = 断面係数 (cm³/m)

- (注) ●上記の許容梁間は断面性能による計算と、タイトフレームの圧縮強度、嵌合引張強度を加味したグラフです。
- 折板の軒のはね出しは、折板山高の5倍以内でご検討下さい。
詳しくは「鋼板製屋根工法標準」(旧亜鉛鉄板会発行)をご覧下さい。
- 実際の物件に即した検討は別途ご相談下さい。

